



竹田 努 議員
takeda tsutomu

問 台風等による高波・大雨の事前対策を

答 しっかりした防災体制の構築と要望を強化します ——— 町長

さらに災害への準備を強化すべきです

道 内各地で過去に例のない大雨や台風による災害が発生しています。これを踏まえて、当町の地形から高波による越波と大雨に対する事前策が必要と考えます。町長の見解を伺います。

大森町長 近年国内における災害発生状況を見ますと、どこでも大災害が発生することを再認識しています。これまで以上に住民の防災意識を高め、しっかりとした防災体制の構築が重要と考えています。

大雨に対する事前準備として木古内川、佐女川では、50年に一度の大雨にも耐える河川として整備していますが、それに安心することなく、避難態勢の充実、排水路の清掃・見

回りの強化をしていきたいと考えます。

また、高波による越波対策では、海岸からの景観などに配慮し、人口リーフの早期整備に対する要望を引き続き実施していきます。

再質問 各河川の中州に多くの流木があることや川底が浅くなっている箇所があることなど、北海道に正確な情報を伝え要望をしてください。

また、町の洪水ハザードマップについても作成より10年余り経過していますので、現況に合わせたものを住民に配付すべきと考えています。

高波対策ですが今回の台風では、国道が通行止めになりました。離岸堤の整備などもう少し改善策がほしいと考えています。いずれにしても北海道への要望となりますが、町と

してどのように考えているか見解を伺います。

大森町長 木古内川については、平成5年から改修工事を実施しています。中州には土砂等が堆積しており、工事の継続と合わせて土砂撤去においても要望していきたくと考えています。

また、洪水ハザードマップについては、時代に合わせて再度見直しの検討をしていきます。

次に、高波の対策ですが人口リーフを平成7年から平成18年にかけて沖合100m地点に二基を整備しています。



木古内川の中州の雑木

で、引き続き三基目を要望してまいります。

町財政の見通しは大丈夫ですか

基 金残高は、現在19億円余り、計画では、7年後の平成35年度に3億7千万円まで減少するもので、少し心細いものです。平成35年度以降の財政見通しについて、町長の見解を伺います。

大森町長 財政収支計画については、第6次振興計画(※1)に搭載した事業をすべて実施した場合で算出しています。毎年度決算実績を反映させ、現実に即した計画となるように更新を進めています。平成35年度以降においても、町財政が維持継続困難という事態にならないように、健全な運営を維持してまいります。

(※1) 第6次振興計画…法の義務付けによって昭和45年に策定してから現在で6期目の町の振興計画。